

## 【大会見聞録】

### 第 38 回基礎老化学会に参加して

柿澤 昌

京都大学大学院薬学研究科

第 38 回日本基礎老化学会大会は、東京都健康長寿医療センター研究所の遠藤玉夫先生を大会長として、6月12日から14日までの三日間、パシフィコ横浜で開催された。これまでの大会には私は発表者の一人として参加していた。しかし今年度より、新たに本学会の評議員を拝命し、これまでとは多少なりとも違った視点から大会と関わり合うことになった。そのような視点も含めて、今大会に参加して感じたことを幾つか記したい。

今大会に参加してまず感じたことは、大会全体を通じての活気である。今年度は二年に一度の、老化関連7学会の合同開催の年であり、老年学会シンポジウムや7学会合同シンポジウムなど、合同開催の年ならではの企画が見られた。私はスケジュールの都合で全プログラムにフル参加したわけではないが、例えば、大会二日目、土曜日朝9時からの合同シンポジウムは、開始時刻には、決して狭い会場ではなかったが、入口扉付近まで人が一杯と言う盛況振りであった。また三日目朝の一般口頭発表では、千葉大学の清水孝彦先生とともに座長を務めさせていただいたが、実はセッションが始まるまでは、日曜の朝8時半開始と言うこともあり、参加者が少なく座長質問を何回もすることになるのではと思っていた。しかし蓋を開けてみると、その様な心配は全くの杞憂であり、フロアからの質問が無くて間が空くどころか、次のセッションとの間が10分あることを利用して、演題ごとに長めに質疑応答の時間をとって全ての質問を受け付けられないくらい、活発な質疑応答が行われた。この様な状況は、同日夕方の最終セッションまで続いた。これは東京都健康長寿医療センター研究所の皆様を始め大会の企画運営に携われた方々の御尽力と、参加者の方々の熱意によるところが大きいと思われるが、次回以降の大会でも、再びこのような状況となることを期待してやまない。また、樋上先生が書かれた36回大会の見

聞録では、質疑応答において御年配の先生が活躍されていたとのことだったが、今回は、比較的若い世代の参加者からも多くの質問が出ていたように感じられた。

また、今大会では評議員として学会奨励賞の審議にも携わった。奨励賞対象のポスターは33演題でポスターの質疑応答の時間は40分、したがって、1演題に当てられる時間はわずか1分強である。ただし、ポスター演題のうち幾つかは口頭発表の機会も与えられており、さらに9分の発表時間と3分の質疑応答の時間が加わる。したがって口頭発表に割り振られた演題に関しては、内容に対する理解が、より深まる。問題を感じたのは、全ての奨励賞対象演題が口頭発表となっていないことである。今回は奨励賞対象33演題のうち、口頭発表になったのは17演題であった。(さらに言うならば、この口頭発表にも、審査投票前に行われた発表と投票後に組まれた発表があった。)したがって、口頭発表の機会の有無で、奨励賞審査に関する有利・不利が生じることが推測されるが、それ以上に私が、本学会の今後を考えた時に感じたことは、口頭発表を希望する全ての若い会員に、その機会が与えられていないことである。せめて若手会員には希望者全員に(理想的には奨励賞対象者全員に)口頭発表の機会を与え、自らの研究成果を広く他の会員に知ってもらうとともに、有益なコメントを得られるようにするのが望ましいと思う。若手会員をどのようにして増やすかは、毎年のように理事会でも問題になっていることだが、先ず出来ることは、新たに参加した若手会員が、また来年以降もずっと基礎老化学会大会に参加しようと思うような大会にすることではないだろうか? 毎年の新規参加者は決して多くなくてもリピーターが増えることにより、長年の積み重ねで若手層・中間層の厚みが増してくることに期待したい。

連絡先：〒606-8501

京都市左京区吉田下阿達町46-29

TEL：075-753-4552

FAX：075-753-4562

E-mail：kakizawa.sho.4u@kyoto-u.ac.jp